

<b>国土交通大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名 <b>株式会社熊谷組 関西支店</b> <b>(仮称) グランドメゾン夙川千歳町新築工事</b> <b>積水ハウス株式会社 大阪マンション事業部</b>
	取組の実践場所 <b>兵庫県西宮市</b>
	受賞テーマ <b>発注者・優良産業廃業者と連携し、独自チェックリストを活用した小規模工事での3R活動</b>

受賞者は、地上5階建て、延床面積が約3,000m<sup>2</sup> (25戸)の共同住宅の新築工事を行った。比較的小規模なマンション工事であり、RC構造(在来工法)で、基礎杭が既製コンクリート杭工法である。よって個々の住戸区画から出る廃材の削減、型枠材の有効利用、建設汚泥の発生に伴うリサイクル活動等が課題となった。また今回のマンションの設計コンセプトとして、工事前の既存の樹木、石造物などを新築工事に活かすことを目指した独自のリユース活動が特徴である。

これまで3Rへの取り組みが手薄であった比較的小規模な建設工事において、今回、パイロット的な3R活動を目指した。発注段階から設計、購買、施工段階の各々で取り組める3R実践メニューを洗い出し、全67項目からなる独自のチェックリストを作成し、そのチェックした結果を元に計画を立て、3R活動に取り組んだ。

発注者や地元の優良な産業廃棄物処理業者と連携することで、小規模工事での3R活動の問題点を解決する糸口を見つけると共に、同発注者による同様の規模の工事にもこの3R活動を展開することで、広く社会に3R活動の裾野を広げる目途をつけることができた。

工事着工前に、上記のチェックリストを基に同工事におけるゼロエミッション計画を立てた。チェックリストの施工段階の54項目について現場で実践できる可能性のある3R活動の中から、同工事に適用できる活動をピックアップして検討した。また現場にゼロエミッション担当者を選任し、協力業者で組織した「環境班」を設置して、定期的にパトロールや作業員教育を実施するなどして現場での3R活動を推進した。

その他にも、設計段階から施工段階に至るまで発注者との連携・創意工夫により、元々その土地にあったものを有効利用すること(リユース)や、住戸内の建具などは発注者の工場で作成したプレカット製品を使用すること(リデュース)を実践した。

<建具の発注者工場での加工と建て込み状況>



現場で発生した産業廃棄物に関しては、地元でリサイクル活動に先進的に取り組んでいる産業廃棄物処理業者(環境省の優良産業廃棄物処理業者認定制度の認定業者)との提携を通じて、マテリアルリサイクルの推進、リサイクル率の向上を図った。

また、運搬距離を最小限にすることを計画し、運搬車両の運行距離低減、CO<sub>2</sub>排出量の削減による地球温暖化防止を推進した。

上記の活動から現場で発生した産業廃棄物の最終処分量は62m<sup>3</sup>となった。これは同規模・同種の工事から出る平均的な最終処分量である75m<sup>3</sup>(日本建設業連合会のデータより算出)の82.7%に当たり、17.3%の低減となり、同工事のような比較的小規模な建設工事での3Rを実施するための有効な方法になる事が確かめられた。